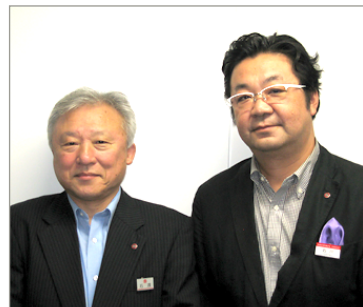


株式会社高島屋 様

17 店舗、3,800 売場で利用される用度品管理システムを
「ProcureMART 間接材調達支援サービス」に刷新し、業務負荷を 3 分の 2 に削減

日本を代表する百貨店である高島屋様。同社は、全国 17 店舗、約 3,800 の売場で、日々、利用される紙袋や包装紙、印刷物、事務用品などの「用度品」を発注・管理するシステムとして、富士通の「ProcureMART 間接材調達支援サービス」を導入。複雑なシステムを刷新し、システム運用の大幅な効率化を実現しました。



課題

- 複数のシステム構成、および操作性に課題があり用度品管理業務が煩雑化していた
- 大規模な人事異動時の利用者マスタの更新が大きい負担になっていた

効果

- システムを 1 つに統合するとともに、わかりやすい操作性により煩雑になっていた用度品管理業務の大幅な効率化・省力化を実現
- システム刷新と利用者マスタ更新の富士通へのアウトソースで業務工数を大幅削減

ソリューション

FUJITSU ビジネスアプリケーション ProcureMART 間接材調達支援サービス

選んだ理由

運用負荷の軽減とコスト削減

採用のポイント

現場に負荷がかからないわかりやすさと 350 社以上の導入実績

以前の用度品管理システムの契約終了を機に、従来からの課題解決を目指す

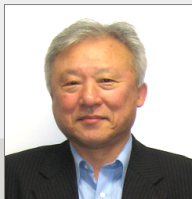
高島屋は、東西に 17 店舗を構え、売場の数は約 3,800 にもなります。各売場では、紙袋や包装紙、帳票などの印刷物、事務用品などの『用度品』と呼ばれるさまざまな物品を利用して販売業務を行っています。売場の担当者は、用度品が必要になると、その都度、システムを使って発注する仕組みです。ところが、このシステムに課題があったと、IT 推進室 IT 推進担当 石渡 博氏

は次のように説明します。

「以前の用度品管理システムの契約期間終了が近づき、当初、継続利用を検討しました。最大の課題は、Windows の保守期限終了に伴うシステム開発やサーバ入れ替えでした。用度品管理システムとして当初から設計されていたわけではなく、『受発注システム』、『倉庫管理システム』など複数のシステムを組み合わせたもので、システム間のスムーズなデータの受け渡しとわかりやすい操作・運用について改善を加えてきましたが、それも限界に近づいていると

認識していました」(石渡氏)

また、大規模な人事異動の際には、利用者マスタの更新が大きい負担となっていました。具体的には、各売場の承認者に異動はないか、異動がある場合は代替りの承認者は誰かといった承認者情報のメンテナンスに工数がかかっていたのです。そこで、以前のシステムの利用期限である 2014 年 9 月末のタイミングで、これらの課題を一気に解決すべく、新しいシステムへの刷新が求められたのです。



株式会社高島屋
IT推進室 IT推進担当
石渡 博 (いしわた ひろし) 氏



株式会社高島屋サービス 物流事業部
統括グループ 物流政策担当課長
石川 淳也 (いしかわ じゅんや) 氏

お客様概要 株式会社高島屋 様

所在地 | 大阪府大阪市中央区難波5丁目1番5号

代表者 | 取締役社長 木本 茂

創業 | 1831 年(天保 2 年)1 月 10 日

従業員数 | 単体 9,729 名 連結 14,662 名

(2015 年 2 月 28 日現在)

U R L | <http://www.takashimaya.co.jp>

現場に負荷がかからず、導入実績が豊富な「ProcureMART 間接材調達支援サービス」を選択

こうして同社は、新しいシステムの検討を開始。最終的に富士通の SaaS 型の「ProcureMART 間接材調達支援サービス」を選択しました。選択の理由について、高島屋サービス 物流事業部 統括グループ 物流政策担当課長 石川淳也 氏は次のように説明します。

「店舗スタッフの仕事は商品の販売であり、それ以外はできるだけ省力化するのが大前提です。そこで、日本橋店の用度発注担当 3 名に、事前に何も伝えないうちに ProcureMART 間接材調達支援サービスを使ってもらったところ、まったく問題なく利用できました。さらに、ProcureMART 間接材調達支援サービスには 350 社以上の導入実績がありました。この 2 つが決め手となりました」(石川氏)

また、同社は倉庫管理システムの刷新も必要としていました。倉庫には用度品がストックさ

れ、売場からの注文に応じて店舗に納品されます。倉庫では、バーコードを使ってピッキングや検品が行われますが、このシステムも富士通が開発し、ProcureMART 間接材調達支援サービスと連携する仕組みを提供することになりました。

開発は 2014 年 2 月からスタート。約 7 か月の開発期間を経て、2014 年 9 月、無事、本稼働を開始しました。

用度品の発注・倉庫担当業務の負荷が約 3 分の 2 に削減

ProcureMART 間接材調達支援サービスの導入により、用度品の発注・管理にともなうシステム間連携は、大幅に省力化されました。同時に、大規模な人事異動時の利用者マスタの更新作業が富士通にアウトソースされ、業務工数も大幅に削減。その結果、発注・倉庫の担当業務は約 3 分の 2 に削減されました。

「用度品管理システムは、1. 品物を発注し、2. 倉庫に搬入して、3. 倉庫から店舗に払い出すという

3 つの機能を持っています。従来は、それらが複数のシステムと組み合わせられていて、運用も複雑になっていました。それが ProcureMART 間接材調達支援サービスで 1 つのシステムになったおかげで、業務は大幅に効率化・省力化されました」(石渡氏)

また、発注する店舗側の負荷も大幅に低減された」と石川氏は指摘します。

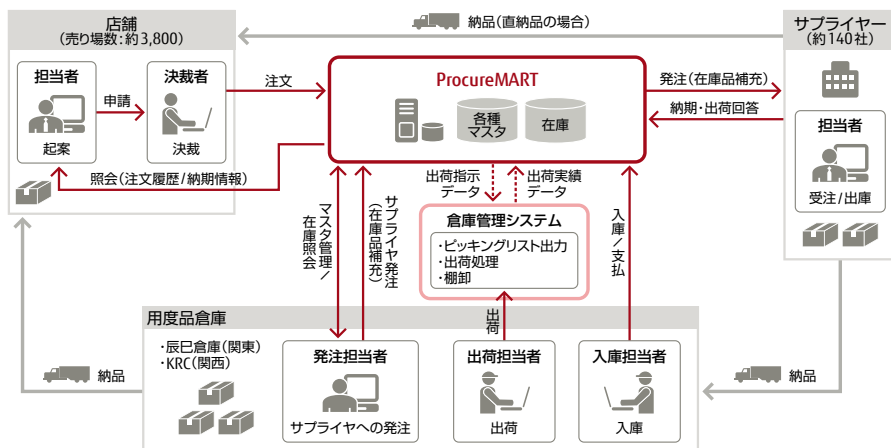
「旧システムは、運用開始初期に商品画像をつけてからは、商品画像を登録していませんでした。しかし、ProcureMART 間接材調達支援サービスは、必要に応じて自分たちで商品画像の登録が可能なので、発注操作が格段にわかりやすくなりました」(石川氏)

将来の自動発注にも期待

同社では、用度品管理システムのさらなる活用・機能改善も視野に入れています。

「将来的には、倉庫の在庫状況によって必要な用度品が自動的に発注される仕組みも構築したいと考えています」(石川氏)

今回のプロジェクトでは、前システムの契約終了の時期が決まっていたため、新システムの稼働に遅れは許されませんでした。さらに、プロジェクト途中で倉庫の移転もありましたが、お客様との緊密な連携により、予定どおり稼働を開始。約 1 年が経過した現在も、安定稼働が続いています。「たいへん満足している。関係者のみなさんのご協力により、スムーズなスタートとその後の安定稼働ができたことに感謝を申し上げます」(石渡氏) という高い評価をいただいた ProcureMART 間接材調達支援サービスは、今後も、高島屋様の用度品管理に不可欠なシステムとして、安定稼働を続けていくでしょう。



本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は取材当時のものです。(取材日：2015年10月)
また、改善などのため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

2015年12月

製品・サービスについてのお問い合わせは

富士通コンタクトライン (総合窓口) **0120-933-200**

受付時間 9:00～17:30 (土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

<http://jp.fujitsu.com/solutions/cloud/saas/application/procure/indirect-material/>